

令和3年度 愛知県食育推進会議 会議録

1 日時

令和3年7月16日（金）午後2時19分から午後3時35分まで

2 場所

愛知県庁本庁舎 6階 正庁

3 出席者

会長及び委員 25名

説明のために出席した者 農業水産局技監始め 18名

4 議事の概要

(1) 開会

これより、令和3年度愛知県食育推進会議を開催いたします。

私は進行役を務めさせていただきます、愛知県農業水産局農政部長の城でございます。よろしく願いいたします。

始めに、愛知県食育推進会議の会長であります大村知事から挨拶を申し上げます。

(2) 知事挨拶

皆さんこんにちは。愛知県の大村です。

実行委員会に引き続き、愛知県食育推進会議に御出席いただき、誠にありがとうございます。

さて、本県では2006年に、この「愛知県食育推進会議」を設置して以来、食育を県民運動として推進をし、15年が経過いたしました。

食育は、県民一人一人が生涯にわたって実践する取組であります。

本県では、県民が主体的に食育に取り組むための指針である食育推進計画に基づきまして幅広い分野で取組を進めており、皆様の御協力により取組が広がってきております。

こうした中で、世帯構造の変化やライフスタイルの多様化、新型コロナウイルス感染症の拡大による「新しい生活様式」への対応など、食育を取り巻く状況は大きく変化しております。また、国はSDGsの達成に向けた施策の一つとして「食育の推進」を位置付けております。

このような状況を踏まえ、昨年度、委員の皆様方に御検討いただきまして、その結果に基づいて、お手元にあります第4次愛知県食育推進計画「あいち食育いきいきプラン2025」を、3月に作らせていただいたということでございます。

この第4次計画では、これまでの取組を継続するとともに、多様な主体同士の連携や新しい生活様式の実践、SDGs達成への貢献などを踏まえ、取組を進化させて、実践力を高めることとしております。

「SHIN化」というのは「新しく化ける」「進んで化ける」「深く化ける」それから、「伸ばして化ける」と、こういう形に言葉を引っかけての「SHIN化」ということでございます。この食育を、このようにさらに前進させていきたい、と思っております。

本日の会議では、前計画の最終評価と第4次計画における主要な取組等について皆様から御意見をいただきたいと思っております。

また、今後とも、愛知県の食育の推進への御支援並びに各団体における食育の一層の充実をお願い申し上げまして、開会の挨拶とさせていただきます。
どうかよろしくお願いいたします。

(3) 委員の出席等

さて、お手元の愛知県食育推進会議委員名簿を御覧いただきたいと思います。

本日は、28名のうち25名の委員の方に御出席をいただいております。愛知県食育推進会議条例第4条第3項規定の、半数以上の委員の出席を満たしておりますことを御報告申し上げます。

なお、3月の推進会議以降、委員の異動がございまして、出席者名簿に※印でお示しておりますとおり、本年度新たに11名の方に御就任いただきました。

本来ならば、お一人お一人から御挨拶いただくところでございますが、時間の都合もございまして、出席者名簿をもって、御紹介に代えさせていただきます。

本日の会議資料につきましては、資料の下段に記載の、配付資料一覧のとおりでございます。御確認をお願いいたします。

なお、会議終了時間は午後3時30分を予定しておりますので、御協力をよろしくお願いいたします。

それでは、ここからは、愛知県食育推進会議運営要綱第2条により、会長代理であります、中根農業水産局長が議事を進行いたします。

よろしくお願いいたします。

議長

それではお手元の会議次第に従いまして、議事を進行させていただきます。

本日御審議いただくのは、「あいち食育いきいきレポート2021(案)」について、及び「あいち食育いきいきプラン2025の今後の推進について」の2議案でございます。

(4) 会議録署名人の指名

続きまして、本日の会議録署名人についてですが、愛知県農業協同組合中央会加藤委員と、株式会社中日新聞社の遠藤委員をお願いをいたしたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

(5) 議事

ア 議題(1)の「あいち食育いきいきレポート2021(案)」について

議長

それでは議題に入ります。

議題(1)の「あいち食育いきいきレポート2021(案)」について事務局から説明をお願いいたします。

【事務局】

資料1、資料2及び資料3により説明。

議長

ただいま説明のありました内容につきまして、御意見、御質問がある方は、挙手をお願いできたらと思います。

この5か年の活動で、御自身の活動の実践状況とか、御紹介いただけたらありがたいですが、いかがでしょうか。

【加藤委員】

野菜の摂取量が、いろんな関係部局の御努力で、数値的に改善しつつあると、このような認識をしておりますが、先ほど何が原因で、改善の傾向に移っているか分析したいというお話がありました。

全国で47位であった統計だと思っておりますが、どういったことをすると改善するという傾向を感じてみえるのか、現時点でわかる範囲でお答えいただければと思います、お答えがあればよろしく願いいたします。

【事務局】

健康分野でありますと、様々な野菜の摂取量を増やすような形でキャンペーンを打ったりですとか、あとは各地域で、野菜摂取等につきまして、啓発をしているというところもありますので、そういった地道なことが少しずつ効果を示しているのではないかとこのように考えておりました、今後とも、そのような取組を進めていきたいと考えております。

議長

それでは、その他、活動実績などを御紹介いただけますでしょうか。

愛知県食生活改善推進員協議会の会長の高野委員、何かありましたらよろしくお願ひします。

【高野委員】

愛知県食生活改善推進協議会会長の高野と申します。よろしく願いいたします。

私たちの食育の取組について、少しお話をさせていただきたいと思ひます。

以前は、高血圧予防とか、メタボ予防とか、生活習慣病予防といったような疾病に関して、食育の取組をしていたという部分が、非常に多かったように思ひんですが、今はですね、ライフステージや世代、生活場面といった部分に注目して、もっときめ細やかに、世代別に切れ目なく、そして世代別に応じた課題に沿った、食育というものを進めるように努力をしております。

あらゆる世代が健全な食生活を送れるようになるということが一番の目標でありまして、ひいては、生活、健康寿命の延伸ということに繋がればよいと思ひております。

具体的に言いますとですね、子供世代、学童期の子供たちが朝食欠食とか、今、孤食といったような問題もありますが、私たちはもう少し世代の上の若者世代、高校生とか大学生、この辺にも注目をしております。この世代が、ひとり立ちをする前に、食に対する基礎知識を持っておくかどうかということが、その後の生活にとっても大きな影響を与えるのではないかと、このことを思ひております。

また、働き世代は引き続き、メタボ予防、これが重要であると思ひております。

また、シニア世代はですね、孤食の問題もありますが、今はフレイルとか、栄養予防とか、こういったことがすごく課題となっているのではないかと、このことを思ひます。

ただ、高校生とかに食育を進めるということは大変難しく、愛知県内でもやはり、地域差があります。働き世代でも、職場の社員向けにできればというところもありますし、その辺は地域の特性を生かして、進めているところなんです。

ただ昨年より流行しているコロナがありまして、私たちは、やはり調理実習、野菜摂取まで含めてのですね、提案等もさせていただくんですが、調理という部分が非常に難しくなります。なので、いろいろ工夫をしながら、地域の実情に合わせて、会議を無理なく進めていくことが非常に大切であると思ひておりますが、調理に関しても

ですね、実際に調理をできなくても、会員が事前に自宅で調理をしてそれを見本として紹介するとか、写真を使って説明をするとか、実際に調理室の人数が半減となりますと、たくさんの方に御参加いただけないので、同じ講座を午前・午後2回続けてやるといったようなことも考えて、実施できた部分もごぞいます。

食べることに對しても、今一緒に食事をしてその中から情報を得るといことが難しく、今までは持ち帰りは難しいし、よろしくないといことが言われておりましたが、このような中で、やむを得ずお弁当に詰めたような形にして持ち帰るといようなことで、家庭に帰ってお子さんとかは、家庭の中で話をしながら、食事を楽しんでもらうといような取組もさせていただきました。

座学に重きを置いたとい部分もありますので、この中ではやはり免疫力ですね、これに特化をした座学を取り入れた部分もごぞいます。

また、昨年度はなかなかできなかったんですが、他県の取組を聞いておりますと、家庭訪問で対応したといような話も聞きましたので、本年度はですね、会員が同じ知識を持って、特に高齢者宅などは、訪問して、安否確認も含めて、少しそういった活動もできるのかなと思っております。全部が全部集合型ではなく、訪問型等を取り、上手く取り入れてやっていくことも大切のかなと思っております。

このコロナといものを体験いたしまして、私たちも、時代に合ったものを少しでも先を見越して活動していくといことの大切さも感じておりますし、また、私たちだけでできることに限りがあるといことで、自分たちすべてでこの活動を完結させるのではなくて、特性とか役割を生かしつつ、他の分野の方々、それを得意とする機関等とも協力・連携をしながら、より質の高い食育活動が行われていたら良いなと実感しております。

議長

ありがとうございました。

これからのプラン2025の推進にも参考になることあると思しますので、参考にさせていただきたいと思します。

その他、御意見等ごぞいますでしょうか。

よろしいでしょうか。

御意見がごぞいませでしたので、レポートにつきましては、原案どおり公表させていただきます。

なお、最終的な調整につきましては、事務局に一任いただくことで御了解いただきたいと存じます。

イ 議題（2）の「あいち食育いきいきプラン2025」の推進について

議長

次の議題に移ります。

令和3年度は、新たなプラン2025のスタートの年度となります。

議題（2）では、「あいち食育いきいきプラン2025の推進について」、事務局から説明してください。

【事務局】

「あいち食育いきいきプラン2025」の本冊・概要版、資料4及び資料5により説明。

議長

ただいまプラン2025の推進について説明いたしました。

今後5か年の食育の推進においては、各団体の取組も重要でございますので、皆様からもう少し詳しく御紹介いただく時間を設けさせていただきたいと存じます。
いかがでしょうか。

【加藤委員】

お時間いただきまして、お手元に「愛知の農業」という冊子をお配りさせていただきました。この資料は、県の農林水産部局と教育委員会の御協力を得て、でき上がっております。

1枚はねていただきますと、QRコードの紙が入れてあると思いますが、これをかざすと動画がユーチューブで見られますので、この冊子を見ていただいても結構であります。動画でも御覧いただけますのでぜひ御活用いただきたいと、こう思っております。

2点目はですね、先ほど資料5で、農林水産学習に取り組む小学校の割合を、一つの取組指標の事例として御報告をいただいたわけですが、JAグループといたしましては引き続き、地元のJAと連携、取組を進めてまいりますので御理解を賜ればと思います。

3点目は、先ほど新たな項目で資料4にありましたが、県産農林水産物を優先して購入する県民の割合を増やすんだと、こういうことで新たな指標を作っていただきました。現在15%、25%まで5年間で増やすと、こういう心強い目標を作っていただきました。

我々も生産者であり、また消費者でもあるわけですが、生産者と消費者をつなぐ、県産県消のプラットフォーム、こういったものを構築しつつあるわけですが、現在県が取り組んでいただいております地産地消流通網構築事業、この方向性を一にして、取り組んでまいりたいと思っておりますので、御理解のほどよろしくお願ひしたいと思います。

以上3点でございます。

【堀端委員】

せっかくの機会ですので、愛知県栄養教諭研究協議会の取組について紹介をさせていただきます。

目指す姿と取組の方向を受けまして、私どもの協議会では、食育の重点項目を3点設け、取組を行っています。

1点目は、朝食に野菜を食べている小中学生の割合を高めることを目標に、「野菜を食べる習慣を身につけさせよう」

2点目は、日本の食文化や郷土料理などの理解と継承を目標に、「日本の食文化を伝承しよう」

3点目は、子供に対する地産地消の理解と、学校給食への利用の促進を目標に、「地場産物を活用しよう」です。

栄養教諭は、県内各地、それぞれの学校で、他の教職員と連携をして、学校全体での食育の推進に努めています。給食と各教科等を関連づけた指導計画の作成や、給食の時間や家庭科などの教科の時間、学校行事などを活用した指導を行っています。本協議会としては、それぞれの取組事例を会員相互で共有する機会を作り、食育を一層推進できるような活動を行っています。

学校給食の献立については、地場産物を多く取り入れるよう旬を意識した献立の作成や、郷土料理を取り入れた献立の提供をしております。昨年度は、先ほども御紹介がありましたけれども、学校給食に県産畜産水産物等の提供事業がありました。

資料の中の36ページに、協議会としての資料を付けさせていただきます。

私は東海市で栄養教諭をしておりますが、東海市では、この事業が大変好評で、とてもおいしい牛肉、それからうなぎ、名古屋コーチンもいただいております。このような食品などを提供していただいたおかげで、普段子供たちが食べられないような食材に出会うこともできましたし、またその食材について理解を深めることもできたと感じております。

あと、本協議会の取組としては、学校で使用する食育教材の作成も行っております。資料の35ページを御覧ください。昨年度は、正しい箸の持ち方や箸の作法について、デジタル資料と教材、授業の指導案を作成し、活用しております。今年度が重点課題の「野菜を食べる習慣」と、「地場産物の活用」を踏まえた食育教材の作成を行っていく予定です。

食の面から子供たちの心身の健康を育むことができるように、家庭や関係諸機関の方々とも連携をとりながら取組を進めていけるよう、本協議会としても努力してまいりたいと思っております。

ありがとうございました。

【栗田委員】

農林漁業体験学習に取り組む小学校という観点で、少しお話をさせていただきたいと思っております。

私が勤めておりますのが、稲沢市であります。

私の知っている周辺の小学校ということで少しお話をさせていただきます。

私は2年前まで小学校で勤務しておりますが、稲沢市には、愛知県の植木センターがございます。そこに歩いて15分ぐらいですけども、小学校1年生の子たちと一緒にあって、ウメを収穫に行かせていただいております。ウメをとってきて、子供たちが1人1袋持ってきて、教室で砂糖に漬けて、ウメジュースを作りました。放課後になると、コロコロと転がしてなじませて、どれだけ漬かったかなあという顔をして、楽しそうに漬けていました。ちょうどこの時期、保護者会がある時に、保護者の方に持ち帰っていただいて、おうちで飲んでいただくという、毎年のお取組をしております。子供たちが美味しそうに飲む姿を見ると、やはりこういう体験をしますと、たくさん食べようなどの食に対する意識が高まるということが印象として残っております。

あと、近隣の小学校ですが、餅米の田植えをして、草を取って、稲刈りして収穫をしますが、それを子供が全部できるわけがありませんので、地域の農家のボランティアの方に、本当にたくさんのお助けをいただきながら、餅米を収穫します。それを、秋の学校行事で、餅つきをして、地域の方に振る舞っている学校もあります。

高学年になりますと、やっぱりそれを自分たちがやるんだという意識で、地域の人達に喜んでもらおうという意識も生まれているなあと思っております。

あと学校の農園などで、ピーマン、給食に使えるような食材を栽培して、給食のメニューに加えていただく。そうしますと、いつも嫌いなピーマンを今日は食べたよという、そんな話を担任の方から聞こえてくることはよくあります。

体験学習というのは、このように子供たちの心を動かす大きな力があるなと感じています。

学校では、健康教育の柱の一つとして食育を捉えて、健康で豊かな食生活を実現しようとする資質・能力を育てていきたいと思っております。地域の力をお借りしながら、子供たちに豊かな農業体験学習をこれからもやらせていきたいと思っております。

最後に付け加えですけども、先ほど紹介がありました、「愛知の農業」の6ページに私が住んでおります稲沢市もありますが、その写真を見ておりましたら、今日、私が給食で食べてきたメニューの中に、この十六ささげが入っております。そして、

少し前には、大口町のところにあります、かりもり、これもメニューで出てきました。地元のこういう特徴的な野菜もメニューの方に加えるといったことを、地域として取り組んでおります。

あと、愛知県産の食材でいきますと、この間、クルマエビが学校給食で1人3尾出まして、子供たちは、唐揚げにしてあるだけで、ちょっとパリパリとして、食べにくかったかなと思いましたがけれども、大変美味で、これも大好評でありましたので、付け加えさせていただきます。

【安達委員】

これからの食育推進について、私からは、重要なポイントになるのかなと思ったところが共食と、持続可能で健康な食事というところ、この2つがポイントになるのではないかなというふうに思っております。

コロナがパンデミックに至る前から、格差という言葉も出てきたところですが、パンデミック以降、孤立であったりとか、分断という言葉をよく耳にするようになりました。その中で、そういうことを解決していくために、連携であったりとか、今日も何回か連携という言葉が聞かれたかと思いますが、連携であったり共有であったり、あと、繋がりとか、そういう言葉が重要になってくるのかなと思っています。そういう中で、やっぱり食というのがそういう繋がりとか、共有というのを生むものになるのではないかなと思っています。

そういう中で共食ということ、ただ単に一緒に食べるだけではなく、もっと広く捉えて、生産者と食べる人が繋がっていくとか、例えば1人で、お弁当を食べていても、食べてるときに作ってくれた人のことを思いまたり、生産者の方のことを思いまたり、何かそういうものを、心と心をつなぐような食、食育っていうのがこれから必要になってくるのではないかなと思っています。

そういう中で、昨年度、まだ継続中でやってるんですけども日進市さんの方で、小学3年生の社会科教材ということで日進市の食に関わる人たちと子供たちをつなげるような、教材等の作成というのを、現在行っているところです。

持続可能で健康な食事の方についても、少し会の中でも話があったかと思いますが、若者、高校生などの食育が難しいという御意見がありました。若い人たち、子供含めて、健康について、健康に悪いから食事を変えましょう、よくしましょう、というのはなかなか伝わりにくいんじゃないかなと思います。だけれど、これからの、私たちはもうちょっとで歳とって死んでしまうんですけど、若い人たちの時代になっていくわけです。その人たちにちゃんとした食の持続可能な環境を整えておくということも、とても大事だと思います。

ただ、それはやっぱり、若者から、環境にとってもっと持続可能な食のあり方っていうのを発信していってもらえるといいかなと。若者たちの問題だっていうことで、若者たち自身が発信していけるような食育っていうのがこれから大事になってくるのではないかなと思っています。

勤務先の大学が日進市にあるんですけど、隣の長久手市さんの方で、そういう持続可能で健康な食事づくりを、実践していくためのセミナーの企画等をしながら、長久手市の食育推進計画の方に盛り込めるように、今取り組んでいるところです。

以上です。ありがとうございました。

議長

貴重な御意見をいただきありがとうございました。

今後とも、皆様方と連携しながら「あいち食育いきいきプラン2025」の取組を推進してまいりますので、御協力をお願いいたします。

ウ 議題（３）のその他について

議長

続きまして、議題（３）「その他」について、事務局から発言はありますでしょうか。

【事務局】

今年度開催する「あいち食育いきいきシンポジウム」について説明。

議長

以上で予定しておりました議事はすべて終了いたしました。

委員の皆様方には議事の進行に御協力をいただき誠にありがとうございました。

県といたしましては、「あいち食育いきいきプラン 2025」に基づき、今後も引き続き、食育の推進をしてまいりますので、皆様方におかれましても、それぞれのお立場から、食育を推進していただきますようお願い申し上げます。

それでは、進行を司会に返します。

（６）閉会

以上をもちまして、令和３年度愛知県食育推進会議を閉会させていただきます。

委員の皆様方には、お忙しい中御出席をいただきありがとうございました。

なお、お帰りの際は、交通安全に十分御留意ください。

本日は誠にありがとうございました。

以上

会議録署名者

(遠藤委員)

(加藤委員)